

目指すは、当事者の立場に立った福祉。

東山 正靖

大阪府立砂川厚生福祉センター 心理職
(2005年人文学部卒／2007年人文科学研究科卒)

2008



学生時代、私はボランティア活動と、子どもと関わるアルバイトに取り組みました。具体的には、対人関係が苦手な人を対象とした「人と関わるためのスキルを習得するための講座」にスタッフとして参加。また発達障がいを持っている子どもの生活支援もしました。このように当事者と一緒になって、状況を改善するという体験が、現在の仕事に就ききっかけになっている

2006



と思います。修大では「科学としての心理学」を学ぶことで、様々な事象を客観的に捉えることの必要性と重要性を学びました。この経験が、困っている人の状態を客観的に捉え、その情報に基づき適切な対応を行う現在の仕事に役立っています。また、4号館という専門的な研究が行える設備があり、先生や友人とディスカッションできる場があったことは、心理学を探求する上でこの上ない環境だったと思います。